

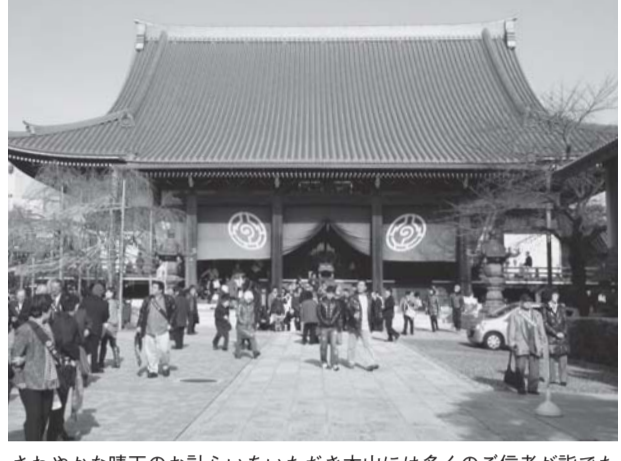
2月号他ページの主な記事
2面 10支・菊池寺 講有巡教高祖会を奉修、6支・メルボルン別院の三祖会
3面 日裔上人の新春放談②、8支・道南布教区 練成道場 ことも御会式、5支・清秀寺門末 第10回松信塾婦人の部開催
4面 特集：24年寒参詣初日の報告 インド仏跡巡拝の旅⑦
5面 権大僧正列伝②
6面 このよこびをあなたとともに：松浦光代さん、内山雅之・美奈さん
7面 佛立この人 11支・大法寺 由本ななみさん、寒参詣初日の報告
8面 門祖日隆聖人物語②、ニュース短信

本門佛立宗機関紙
佛立新聞
THE BUTSURYU SHIMBUN

平成24年2月1日発行
発行所
本門佛立宗宗務本庁
京都市上京区御前通一条上東区町110番地(〒602-8377)
電話(075)461-1166(代)
振込口座 京都 18650
発行人 藤本日浦 / 編集人 橋口清遠
購読料加料 一部50円

今年も無事に
本山へ初参詣

昨年・平成二十三年は
厳しい寒波の襲来で、京
都地方は十五年ぶりの積
雪の元且を迎え、まるで
苦難を告げるような幕開
けとなったが、本年・平
成二十四年元且は、昨年
とは打って変わって穏や
かな日和となり、良き年
を告げているような晴天
の計らいとなった。
特に元日の京都は、雲
ひとつ無い晴天で、早朝
から関西地方を中心とし



さわやかな晴天のお計らいをいただき本山には多くのご信者が詣でた

た各寺院より、団参や個人による初詣の参詣があり、お正月らしい賑やかな風景となった。
本山宥清寺では、大晦日の十二月三十一日の午後十一時から、除夜法要が営まれ、午前零時になり新年を迎えると、引き続き元且参詣が営まれて八〇〇名が深夜の本山に詣でた。
元且の朝は、午前九時ごろから続々と初詣の参詣者が詰めかけ、二〇カ寺から観光バス十五台とマイクロバス六台による団参六〇〇名、個人参詣を併せて一八〇〇名が詣で、大晦日から元且にかけて二六〇〇名が新年を本山で祝った。

佛立寺

滋賀県にある佛立寺では、住職の小野山日住師が、昨年の東日本大震災を教訓に、平成二十三年の今年の漢字に選ばれた「絆」の大事を参詣者に諭され「今年も頑張ってください」と激励された。
佛立寺では、大正時代から元且参詣に詣でたご信者方に甘酒のご供養をふるまわれており、今年も一四〇名のご奉公者が早朝より甘酒を用意され、一年の初めを祝うご信者方にご供養された。

誕生寺

京都市内にある開導日扇聖人御誕生地道場の誕生寺では、講尊梶本日裔上人が元且に詣でた参詣者におめでとう、という気には中々なれないけれど」と前置きされ、昨年の日本の歴史が変わるほどの大災害を経て、佛立信者は、犠牲になった人々が浮かばれるような死者を生かす生き方をし

長松寺

京都市内にある宥清寺奥ノ院の長松寺は、開導聖人の御遺品が展示されており、元且に詣でた参詣者は親しく開導聖人ゆかりの品々に触れる機会を満喫されていた。
長松寺には代表参詣を含め七十一名が詣でた。

義天寺

大阪府守口市にある開導日扇聖人御遷化地道場の義天寺では、住職の竹内現暢師が、震災後、関東に在住するご信者の家に伺い、そこでガイガーカウンター(放射能測定器)を使ったら、御宝前に供えられたお花が被爆しているのがわかり、あわてて別のお花に活け替えた話をされ、被災地周辺のご信者のご苦勞を披露された。
義天寺への元且参詣者は六カ寺からバス九台で三十三名の団参、個人参詣が一五〇名、寺内参詣者ご奉公者を含めて七六八名であった。

参詣者は、十五カ寺からバス十八台で詣でた五三〇名の団参、自家用車や電車などで詣でた個人参詣者を併せて一五三〇名が詣でた。

なければならぬ、と諭された。

誕生寺には六カ寺から一五六名の団参、個人参詣七十五名、寺内参詣者六十六名の計二九七名が詣でた。

大阪府守口市にある開導日扇聖人御遷化地道場の義天寺では、住職の竹内現暢師が、震災後、関東に在住するご信者の家に伺い、そこでガイガーカウンター(放射能測定器)を使ったら、御宝前に供えられたお花が被爆しているのがわかり、あわてて別のお花に活け替えた話をされ、被災地周辺のご信者のご苦勞を披露された。

義天寺への元且参詣者は六カ寺からバス九台で三十三名の団参、個人参詣が一五〇名、寺内参詣者ご奉公者を含めて七六八名であった。

一言

中国の経済成長率の目標は年八パーセントである。不景気の世の中であって、少なくとも景気が前年よりもプラスならば御の字と思うが、中国では事情が異なる。中国では年に八百万人の就労人口が増加するといわれているので、年に八パーセントの経済が伸びないと、増えた就労人口に職を与え、家族を養わせることができないというのだ。昨年の成長率は五パーセントだった。経済が伸びているにもかかわらず、倒産した企業、失業した人が増えた。おまけに欧州の金融不安などがあり、これからの経済の動向が今までもますます気になるところである。論語の里仁篇に「利に放りて行なえば、怨み多し」と孔子は述べている。利益だけを求めていると、他からの怨みをまねくと。世界一の人口を抱える大国が、利益のみを追求し、自国の繁栄だけを指せば、やがて他国からの反発を受けざるを得ない。国民一人一人の生活を豊かに、と願う力を注ぐのは国家の目標である。しかし、その欲求も限度があり、行き過ぎれば他国にとって毒となる。世界は一つであり、仏様が法華経で示された「悉是吾子」この世の人々は全て仏の子である、との御教を奉じ、他の人に対しても、他の国に対しても思いをかけることが、仏様の教えを信じ、行じるわれら佛立信者の生き方なくてはならない、と念じる。

第二十三世日承上人御三回忌厳かに
報恩教化も成就し ご自坊本妙寺で奉修

去る平成二十一年十二月二十八日、法寿九十歳をもってご遷化された佛立第二十三世講有・奈良本妙寺第三十四世住職・日承上人の御三回忌法要が、昨年十二月二十

日に日承上人の祭壇が荘厳され、奉修導師以下、弔主・本妙寺住職・野崎隨院・門末寺院代表、寺内参列信徒が次々とお焼香を捧げ、日承上人をお慰み申し上げた。
一、法要終了後、遺弟代表・堀田承要師、弔主野崎隨院が挨拶に立った。特に野崎隨院が

らば、御三回忌の報恩教化誓願成就の報告と共に「日承上人が六十年の長きにわたってご奉公された和歌山親会場が、このたび和歌山別院として設立され、九月に開堂式を執行させていただきました」と喜びの報告がなされた。(開堂式の模様は本紙昨年十二月月号で紹介しています)
さらに「入院の前日まで毎日つけられていた日

記をはじめとする様々なお書物に遺された教学的なこと、宗門のこと、そして本妙寺門末のご弘通を身に呈して報恩ご奉公をさせていただきます」と、ご弘通ご奉公を誓われた。
また奉修導師・伊藤日学上人は、日承上人との様々な思い出を語られた後「さらでも死なな命をのりのため 捨るとな

らばうれしからまし」との御教を引かれて御法門を拜まれ「唱え死の覚悟が大事」と諭された。

本妙寺教講一同、日承上人への報恩ご奉公の誓いを新たに、無事に御三回忌法要が終了した。

莊嚴された日承上人の祭壇前で挨拶し、報恩ご奉公成就をお誓いする住職・野崎隨院

16日 高祖御降誕
承久四年(一一二二)二月の十六日。房州(千葉県)小湊で御降誕。高祖は御経にみ仏が示された如く、末法の初めに仏勅を奉じて、釈尊入滅後の二千年の世に、心の闇を照らす大導師としてご出現あそばされた。
寛正五年(一四六〇)二月二十五日のこの日、蓮師後身としてご弘通せられた門祖日隆大聖人は、多くの門弟の唱題の中、ご自身も唱題中八十歳でご遷化あそばされた。
『宗祖は日本国に前代未聞正像未弘の本門心上行所伝の題目宗を建立也。門祖は諸門流の習損を責て、八品所願の題目宗を再興也』と開導聖人は仰せになっておられる。

15日 釈尊涅槃会
西紀前四八六年二月十五日、聖者釈尊が御入滅された。釈尊は「死ぬのは私の肉体にすぎない。私の全身、久遠の生命はいつまでも法の中に生きている」と仰せられた。

2月のこよみ
25日 門祖御祥月御命日
寛正五年(一四六〇)二月二十五日のこの日、蓮師後身としてご弘通せられた門祖日隆大聖人は、多くの門弟の唱題の中、ご自身も唱題中八十歳でご遷化あそばされた。
『宗祖は日本国に前代未聞正像未弘の本門心上行所伝の題目宗を建立也。門祖は諸門流の習損を責て、八品所願の題目宗を再興也』と開導聖人は仰せになっておられる。

2月のこよみ
15日 釈尊涅槃会
西紀前四八六年二月十五日、聖者釈尊が御入滅された。釈尊は「死ぬのは私の肉体にすぎない。私の全身、久遠の生命はいつまでも法の中に生きている」と仰せられた。

今月の宗門行事予定
4日 寒修行参詣終了
7日 講有考試上座講師口頭試問
8日 講有考試一等講師口頭試問
16日 高祖御降誕会
17日 本山初灯明料第二回奉納式
4日 立春
この日は寒参詣最終日。参詣で鍛えた佛立魂で今年度の弘通誓願達成に努力し、聴聞した佛法門の実践に気張らせていただく。
14日 高祖佐渡ご流罪御赦免
佐渡在島三年のご法難であらせられた高祖日蓮大士に、文永十一年二月十四日付で幕府より御赦免状がおり、鎌倉の日朗上人がこの状を携えて佐渡へ向かわれた。